

実績評価書

平成18年7月

政策体系	番号	
基本目標	1	安心・信頼してかかれる医療の確保と国民の健康づくりを推進すること
施策目標	5	感染症など健康を脅かす疾病を予防・防止するとともに、感染者等に必要な医療等を確保すること
	II	治療法が確立していない特殊の疾病等の予防・治療等を充実すること
担当部局・課	主管部局・課	健康局疾病対策課
	関係部局・課	

1. 施策目標に関する実績の状況

実績目標 1	医療の受診機会を増加させること (実績目標を達成するための手段の概要) 難病特別対策推進事業により、概ね二次医療圏ごとに少なくとも1カ所の難病医療協力病院を確保し、そのうち原則として都道府県に少なくとも1カ所を拠点病院として指定し、入院治療が必要となった重症難病患者に対し、適時適切な入院施設の確保等が行えるよう、難病医療提供体制の整備を推進した。 ○関連する経費（平成17年度予算額） ・重症難病患者入院施設確保事業 138,862千円 (評価指標の考え方) 原因不明で治療法未確立である難病については、通常の医療機関では治療が困難なため受け入れを拒否されるケースが多く、重症難病患者の受け入れ体制を備えた難病医療拠点・協力病院の力所数の増加が、難病患者の受診機会の増加を測定するための1つの指標となる。					
(評価指標)		H13	H14	H15	H16	H17
都道府県の難病医療拠点・協力病院数	拠点病院	59	70	74	76	82
	協力病院	1,063	1,186	1,451	1,478	1,507
	計	1,122	1,256	1,525	1,554	1,589
(備考)	評価指標は、健康局疾病対策課の調べによる。 なお、各年度の数値は、年度末時点である。					
実績目標 2	難病に係る情報を広く国民に提供するべく、難病情報センターへのアクセス件数について前年度を上回るものとする (実績目標を達成するための手段の概要)					

財団法人難病医学研究財団の設置する難病情報センターにおけるインターネットのホームページのメニューを充実するなどにより、国民への情報提供を推進した。

○関連する経費（平成17年度予算額）

- ・難病情報センター事業 32,132 千円

（評価指標の考え方）

難病情報センターへのアクセス件数は、実績目標における目標値の達成度を測定する指標である。

（評価指標）	H 1 3	H 1 4	H 1 5	H 1 6	H 1 7
難病情報センターへのアクセス件数 （単位：千件）	4,490	6,074	7,848	10,192	13,336

（備 考）

評価指標は、健康局疾病対策課の調べによる。

なお、各年度の数値は、年度末時点である。

2. 評 価

(1) 現状分析

現状分析

難病についての根治療法は未だ確立されていないものの、様々な調査研究の結果、いくつかの疾患では大幅な予後の改善が見られているところである。

その一方で、未だ原因も解明されていない疾患が多いことも事実であるとともに、難病患者やその家族については、長期間の療養や介護を必要とするなど、依然として多くの問題を抱えている。

(2) 評価結果

政策手段の有効性の評価

（実績目標1について）

難病特別対策推進事業により、難病医療拠点病院・協力病院は最近4カ年で467病院が新たに整備され、受診機会は着実に増加していると言える。

（実績目標2について）

平成17年度における難病情報センターへのアクセス件数は最近4カ年で約8,846万件（1月当たり約74万件）増加しており、情報提供の成果が十分に上がっていると言える。

政策手段の効率性の評価

難病患者については、通常の医療機関では治療が困難なため、受入拒否等、早期診断及び治療を受けられないことが多いのが実態であるが、難病医療拠点・協力病院をそれぞれ各都道府県、二次医療圏ごとに整備し、相互に連携を図ることにより、難病患者への地域格差のない、迅速・的確な対応を効率的に進めている。

また、難病情報センターにおいては、難病に関する医学情報や研究成果、医療機関・相談機関の情報等について、インターネットを積極的に活用し、最新の情報を提供することにより、パンフレットや研究報告書のみ比べ、より多くの国民に対し迅速

に情報を提供することが可能となり、効率的である。

これらの手段を総合的に実施することにより、特殊の疾病等の予防・治療等の充実が効率的に推進されている。

総合的な評価

本施策を進めることにより、難病医療拠点病院・協力病院は年々着実に増加し、また、難病情報センターへのアクセス件数についても、最近4カ年で約3倍に増加していることから、難病患者に対する受診機会の増加及び国民への情報提供は効果的に行われており、施策目標は着実に実施されている。

しかしながら、難病患者は毎年増加・高齢化しており、難病患者等の療養上の悩みや不安に適確に対応するため、引き続き所要の施策を推進していく必要がある。

評価結果分類

- 1 目標を達成した
- ② 達成に向けて進展があった
- 3 達成に向けて進展がみられない

分析分類

- 1 分析が的確に行われている
- ② 分析がおおむね的確に行われている
- 3 分析があまり的確でない

3. 特記事項

①学識経験を有する者の知見の活用に関する事項

なし。

②各種政府決定との関係及び遵守状況

なし。

③総務省による行政評価・監視等の状況

なし。

④国会による決議等の状況（警告決議、付帯決議等）

なし。

⑤会計検査院による指摘

なし。